

三四一

想從著聞奇集

四





想山著同奇集巻の目

目録

一 日光山龍の堂不思議の事

一 夢氷雪の事

一 大石のまじと所符のありたる事

一 大い成蛇の尻と截る紫らきさる事

一 夢溪堂と衣紫と積る事

一 義濃國と熊と捕事

一 死に神の付つかうゝ一嘘と云難事

一 信別と云々怪歎と利敷る事

一 雁の首に金と懸て迎るる事

一 夢思氏の質速獲たり預りたる事

目録

一 身の大い成人の事

一 龍の卵夢雷の玉の事

一 古程人り化るる事

一 夢此業の死と知る道と避るる事

一 西夜房跡陀此来の来迎とねと住とる事

一 義濃國須原社系事と不思議夢雷験の事



日光山外山麓り堂不思議の事

氷岩の事

野別日光山の月津山より向ひて連り右の方へ稲荷  
川と大河流と生其川の向は外山と云有金一室の  
孤山より連り十八町有と云り此の地を往來する  
と十町め近きたる頃急坂城へは下り僅三  
の足溜りありて居有後ろを顧り見まば  
大谷川の末清川へ落し常別の方と川末の急流  
廿余里一眺り見渡りて終末へおぼふと一眺り  
きり終崖より胸と射か心地きりきり  
巖石は僅けと足踏するほどの跡ありて巖の角  
苔蔓の根とまよりくく漸頂へ登り得る

先達のもの様より明橋との川用意して彼  
稲荷川と渡る時は水と汲み持ちて是へ行はる  
ぞと母同り山よ氷より山と登りて若  
きに湯とくると胸とくると云は年々  
より強りて板の石より人より冬動氣増え性  
ゆゑ甚かき思ひ候成は山り登るべく若  
さの餘り湯とくると心はぬ事とくるとの成る  
久あはれ地は居り別切の前者の事ゆゑ先達を  
させ案内より頼る事あるべきやうと有後  
と思ひて光りたるは七八分月ありては終  
居るか刀目り懸り跡の方へ巖を板より跡の外  
郭よりありきり去る元氣は僅せき勇進



登るり八九分目より勢と掠る若くはくく喰  
喝する事甚あきり極く後ハ中く喝く聲も  
出さか極くは時は彼水と呉る故二三椀のくく  
喰と渥くく心地淋り耳露りぬたたるり  
おれりりくく是ゆくく甚あき事と押くくあるべ  
且我能智とくく人のする事と侮り怪むべく  
相後頂ハ何くくと懐成やうあきくくくハ異地  
有くく一間四面極く石畳の堂りり内り一振あふ  
厨子もくく甚く戸ざりたり  
は前り二間は九尺の籠り堂有ぬ右の石くく作り  
きか堂の後の方ハ少くく四りくく次の小室と云  
石乃不動尊三辨計有のくく外ハ竹もする程の







場而より、養生の元山之  
日光山志は、堂なり。又、板敷根岩  
 時ハ山よハ本とて、一本をあハ山の裏の方  
又ハ後人の習ハ、難本まわつて養生をせり  
 とり、平二面の養生之ハ麓り堂の内と見えハを坪  
 木の而ハ云同主條ハ冬ニ冬をぬりハ而リナ六七  
 才ハ而ハ而姓新の男子き人前リ線香とニハ種焼  
 垂々顔と舉々一日見きるありに相とをいそむ  
 竹う物有げよまごごとて、端り居り彼速なる  
 先達の男は若り言葉と無々いつありとぞと同  
 は男をといふありと云ふまごハ三日だな若う  
 らハ二日め四日目が種焼だ憶り思ひく而りやと  
 何うあふと云ふく宵種うぶさりますすといふ  
 一昨日より一人と同一とていハ外リ二人居る



き人ゆり又きのふ二人ゆり〜とりよらまハ又誰ぞ  
来り〜ん亮角あんやうが本事だぞ水とやんそ  
一概告せ〜後い跡の水とやる〜一茶碗とやう  
宵極々思ひ〜少〜つ裁け〜云おきけ者〜この  
而へ以食〜籠〜ふの〜心謝〜夫の先達よ  
要安回〜その内ハ雷多〜寒氣と甚あ〜露  
くをり〜ゆ〜と最の月ハ二人と三人とま〜幸ハ  
心だり〜と一人と終る幸ハ心だり〜松も  
着〜時ハ毎年の振り又〜と〜籠りま〜  
〜云〜振り何故よ〜露り〜や心預有〜の  
幸の又ハ恩〜と〜中〜恩〜而の幸〜ハ  
心だり〜皆心預有〜の幸〜と昔〜心預有

何事〜也格別靈驗と有〜と問〜り〜と〜  
き〜ぬ〜と〜幸ハ心だり〜ゆ〜心預と云ハ露〜と  
の事〜と〜心だり〜と〜松とや〜と〜先親の病氣  
と祈り〜と〜或ハ松子供の良自習儒ハ故一向目ガ  
見えませぬ何事〜と〜紙〜と〜読〜り〜讀〜り〜皆松  
心〜預〜ハ又誠意とバ人並り〜と〜と〜  
何〜種〜の願ひ〜と〜心だり〜と云 予思ハ松今嚴密  
出家の僧侶ハ新法り〜と〜一七日と以食〜て  
法と傳〜或ハおと〜と〜の別〜と〜甚ハ自聖ハ  
来り〜と〜地〜と〜は而〜来り〜と〜以食〜と〜幸ハ  
一向容易〜と〜有〜と〜と〜と〜と〜と〜  
事〜に〜凝〜り〜坐〜り〜と〜祈〜る〜た〜せ〜い〜應〜ハ〜有〜と〜然〜と〜



昔々初々愛明ううり江戸にどくどく肉食する  
中々抜力なり二便り行事うへま難儀と嘆くも  
は堂々籠りてつかつか仲元者者毎毎夜の明ぬ  
稲荷川を下りて夜の明ぬあつて人あきど川中  
ぬく水と浴び振舞と元氣盡くる事とぞ我の  
信成實性のものをいかに能き脱又右先達な  
どといひううと水とあひ共誓りよううとた  
ううと吐くうり実なたを有て道理とぞ思  
ふか物なり長は不思議の事の有る願の  
成る成難き者ハ必し一七日の禁り出来来下  
る事とぞ先達の云元人始ハ成る遂る事  
ゆくと僅一日二日居る断食の思成る止か

我の者ハ偏り然る常事とぞバツととる事  
なり根性と慥ううと信公堅固ううと覺り  
きか者うと障礙とあると満願成り兼下山  
まかものも澤山は度々うとまハ思ふ事なり  
度々うと云成難きも有て事ハ是佛家云  
前世の宿願の悪友うと而謂後生の悪とこのと  
知る事なり相と障礙と云ハ何なる事ぞ具は  
成る事なり又然り回返るにまハ成る事なり  
元人一枚うとまてと先大元ハ衆人へ後藤を  
夢現門とて大風吹来りは薨り堂今なりと  
吹落さうと松成心持くる事なり満り兼うと  
て花紀見るとハ何事とぞ傷ハ回高の預人



四六















身神をもてこきまて側は居る者どもと初め感あへ  
妻の相子とて思ひ居たりはたは河へは  
小舟のありまのあり相子の留りて妻の事と  
成するのことも思入ふまを感あへ故うやうの  
所野河よりきり外は志より八音をうへむとて  
かの度と遠近を里餘り先み遠近なりて居る  
の始末とて述ゆ宛りとするやうの度の免をま  
云へと宣ふと懸降りて是と力よと通りをり  
笑ふと程度ハ所度り連り常時と云ふと是ハ  
水野竹束たるもの市谷 御座形の道中七里の  
その七里の着く八音(五佐)を執中現りき居り居る  
見居るから事なりとて居りてその時ハその満座の

名を覚え居るは甲十年餘りの昔に感と今を  
そ名を覚え居るは甲十年餘りの昔に感と今を  
ありきハ竹束たるもの市谷 御座形の道中七里の  
尊卑の澤ハ能く海をへ

大い感蛇の尾と截て紫のまきする事

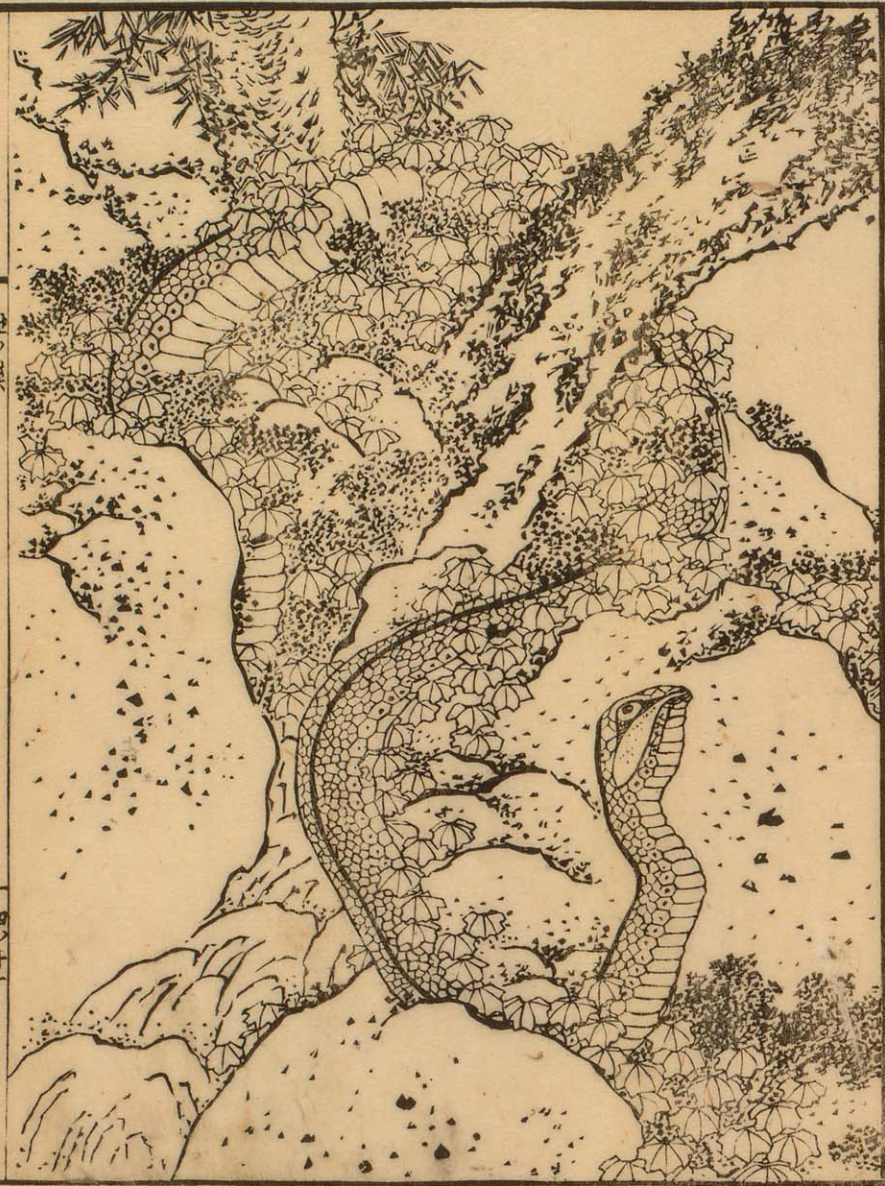
女強勇とて右紫を挟たり事

信別小娘と東と向村 上田の城下の 曾右衛門とて云百姓河り  
農事の回ハ蚕の繭を買集り上別と向村の傍へ  
送り縮布の類と交易しとて渡せとてかそのとて  
は宅の裏ハ山濱とて其山の麓り池有り昔に  
其池の色ハ大なる蛇一丈居居る左代と史と無敵天  
と紫め池の中端ハちのきと網と建りて居る米を舂



げとあゝは焚いの網り供とるは件の大蛇出く  
吏と食事とくくくも事まて之を事と後より  
寛政十年戊寅の事なりが曾右衛門八高ひりく  
右と別る勝の元町へ行く運向なり居る面あり  
将葉吉花櫃の植替とともくくく誤く彼蛇の尾の石  
式人餘り截落くく其尾先大摺本後々其文書より  
豊吉湯をのぐく大勢く大成丸をのめ蛇身  
絆と巻くくくくくくくくくくく行と流  
苦くくくくくく蛇余人の目は一見えくく  
豊吉の目は一見くく後集の故新縛もくも駄も  
たり醫師と集り藥をく用ひ試みくくくく  
切とたり豊吉ハ四六日の月は一見くく後集若く







くらばは姿うくハ何ともしめあきそ肉リ神芳を死よ  
 死より外なりと醫所をヤ安行よとせよと者あ  
 小告あせ免と南とちまてべ〜〜〜建者成急死  
 術と〜〜の元町へあせを〜〜り相曾有遠との  
 病室の松子と具り安〜り松丈あ〜る〜〜て  
 と死りハ死るす我未と〜と松有残りの祈と  
 明日の市は賣掛起りの及おハ怒意の方より買と  
 上〜貰と〜と〜日がぬると驚うと〜侍店と〜  
 飛術と先返〜更々大新り周車と斤付〜早〜  
 海老なり〜り松祖父以来我方の鎮守〜と汝未  
 〜〜〜虫類と無天なり〜〜あり無〜月〜飯と〜  
 喰せと〜るよ已が漬〜飯取よ出居〜誤〜と〜と



する事とせしむるを素と云ふ思ふ事なり  
 先祖より赤嶺一々地け並ぶるものうらまへ  
 其の人の居る所を成而とて夜とて一壺寄ち  
 送り伴の蛇と怪出一竹のどうとてお救い  
 並よ皮と剥先二とて切酒の肴となりてうち  
 らひくももめ残りハ後食をまてて酒よ  
 漬るく日く食するよまの病人ハ次より使く終  
 二日中とて速り金枝なりたり有る處ハ  
 切捨たの尻先と尋出くは皮とてとて眼の方  
 のはく總會せしむる種の蛇授けり子孫に残  
 置かぬとて能く能く長押は無事たりと板  
 彼腫ハ昨日腫と無りて悉く食せしむる地  
 の

蛇ノ祟

ちき大へのり蛇有く色ハ赤黒の蛇びとて有  
 と云ふ云野宿の宿り光禪寺の寺中の僧は蛇と  
 交蛇と教へたハ道理を極の事なりとて先祖の  
 久しかり並ぶる女秋夫の祠と懸ち捨るハ軍一  
 更う建是下の宅ハ最卑元の蛇ハありあす  
 我ハ出家の事日が地内より蛇ハ子蛇ハありあす  
 する祠と修むべしとて可成に元の蛇ハありあす  
 右光禪寺よりあり並ぶるといへり有る處の勇  
 感むるよりと餘り有る事なり是ハ縁道云有る處  
 又子と孫の知己とて彼皮をたぐ見え居て  
 能く居るの活なり

義濃の岡より蛇を捕ま







熊捕





五ノ十五





此のへん  
 いさゝかハ本は位と元り位と同一事と本も  
 小井極なるといふも位居る本の一つの中り  
 二所三前後と位居る所あるに作り有るのとぞ又  
 元り居るのハ數の下なるの自然と露める所  
 元と極と居る所のうへはハ元り又まゝの抗と  
 ありハ極崩又抗とお垂してハ極崩とて逆り  
 堀發とて前めく実教と事と山海經云々  
 又越後雪清東遊記より記し有るは又捕と  
 遠いより國々によると種々多岐なり有る事と意  
 そり又其の内本り居る態とおと必爛りの揚り  
 たふた目怒と張る散傷へ退さる二の玉と  
 お又三の玉とお故大辨ハ又うへゝある事となり



廣場かゝるゝおておある時ハ義々々々とお付りと  
腹をくちと懐を抱いていつまぐとむちと居る  
ゆゑ二の由又三の由とお奉るといりおわい 是ハ  
一命と酌とをき 飢ゑとあり生死一瞬の肉と生ずて  
生涯を送るといふと實り危うと波せり  
山城雪清ハ山家乃人の活り熊と殺事二三度ハ  
年磨ゝゝ熊一丈と殺と其山必落る事有山家の  
人もと熊意と云は敵り山村の農夫ハ需て熊と  
捕事とすといひ熊ハ靈有事書事と見え  
そりきゝ熊ハは森懐の形と色とくハ形のみ  
熊と捕事ハおある事に向ゝきとてゑ  
事と覚えと云む雪中の熊の膽ハ悪くさる

めくとも空ありハなり好みぬる分ハナありと  
共あるとかり時りうりてハ一丈の膽が二十度と  
成多とと獲る事有く終の窮民共のめ七人  
組合一時り二十金と十金とと獲る事有バ是  
なり身代ととすゝ生涯又母子とと安撫  
養ふとと甚ととあるととあり矢張困窮  
粥飢渴り及むととある事有ハ熊と殺せ  
罰のりハ海と云うと大金と与る事故  
止業と深山幽谷とと飲つと是ハ堅陳陳雪と  
満分頭ハ星霜雨露と殺とと實ハ命と酌と  
すゝ危とす 割と命ととりこに後と  
養ふととと去る窮極ととすゝ







死二神

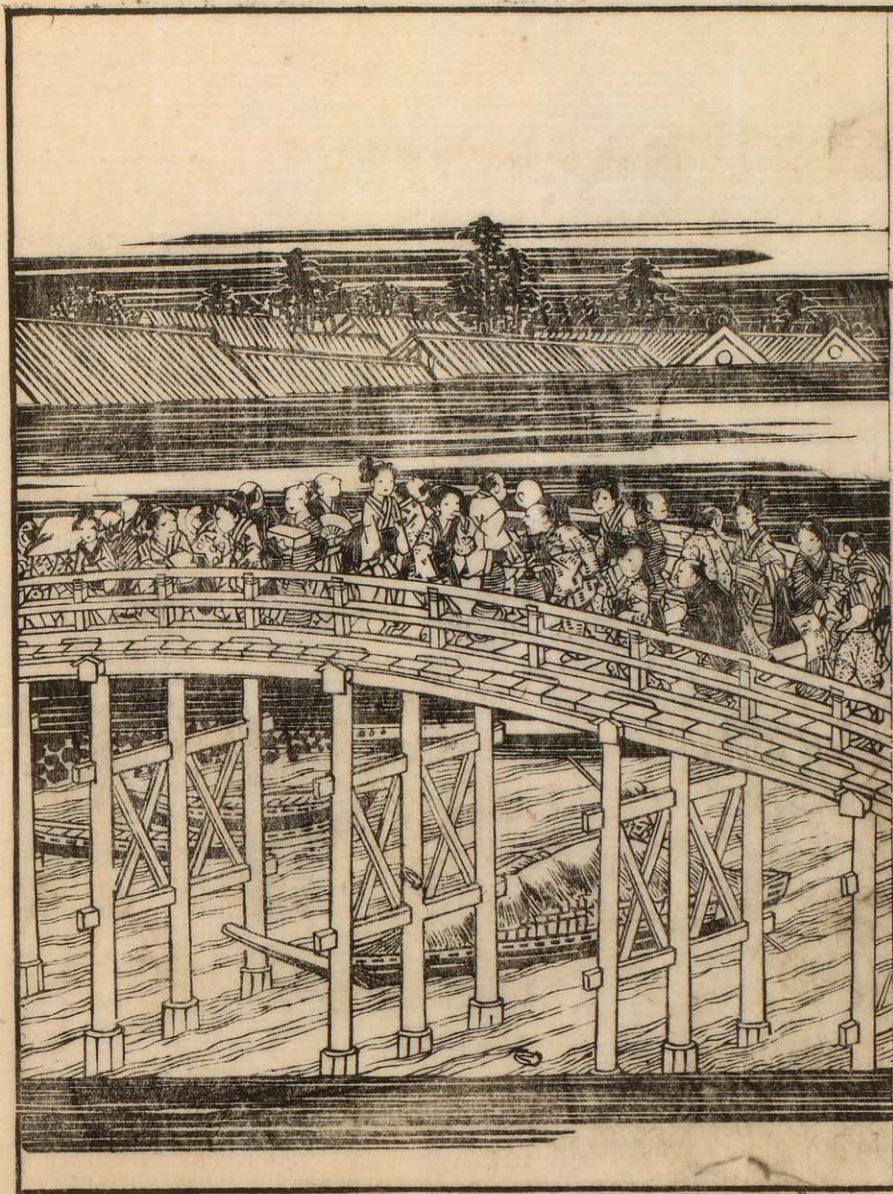
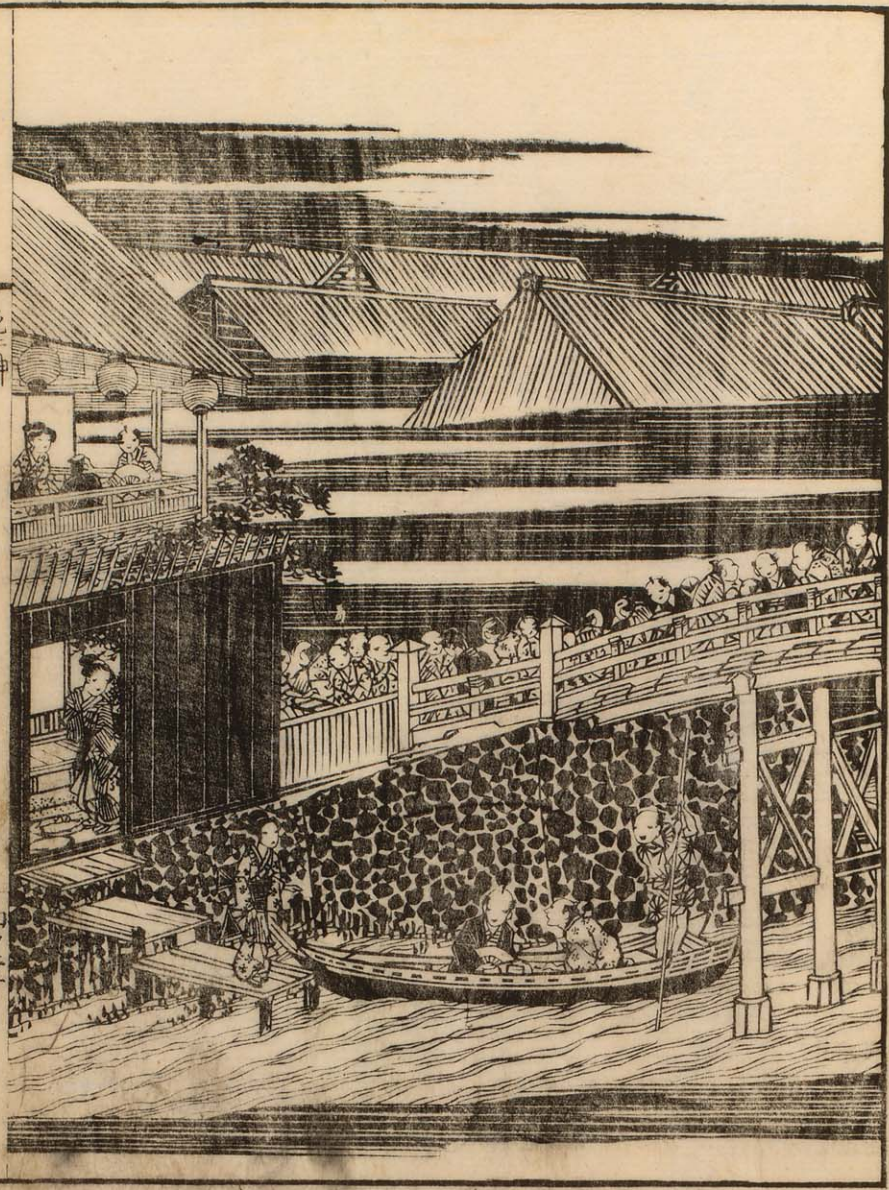
四千八

水知く〜〜〜立り酒と音大勢はく踊り舞きて  
 松び踊りたき〜と聲言ふなり〜若々に河の  
 松りぬる事よ成くるハ異くと合点の新ぬ事なり  
 我ホ此きの男は惚ろ〜とさう〜又男のとら〜  
 或ハ金よ惚ろ〜と云ふとあ〜も或ハ久後別深〜  
 居〜の情と涙く成つ〜と云ふ〜とさう〜  
 生〜居〜ハ義理の悪友〜と云ひ次とさう〜  
 幸〜ハ思へ〜と云ふ頃血氣の事よも〜バ行も  
 驚ろむど歎けの事おの数とも思ろむ〜あはとの  
 成りハ何するのう性〜もバ多〜もお對そ心平  
 〜死の面を向〜ん何れとせよ今宵と又来る處  
 〜と書合の出けみ時前よ彼樓へ移〜女を侍居



死二神







八百屋は預けあるべし之バ今死ぬおがも振る  
とんぢやうが有つてさうとせしと死ぬるまじと費え  
費え八百屋は並バ八百屋のおも成べし預けられんと  
むりなま成りて八百屋は預けまら浪花新地と  
通り振るころ彼女の顔色と能見るゝ大な替りて  
最早一途は死ぬ事と思定する有さぬるまじとハ  
うううと女席の中に任せしとせしと是切は死ぬ仕  
舞ハ思ひしとぬ事なうける中彼う約束  
し今更やとてい強一不慮成事を納めて  
長を命とい場限りは編めうると云と智恵のあま  
宿上如行ハせまうと思ひはげしが家子義理と  
是切は是は任せしと迎へしと思へしと女と兼て覚悟の











あそびの座敷を有とせと上げしを而へ久く  
くもまきりしを極子に見え虎果する有極く  
法分極子の座敷を有とせとせと家なり秋り入  
も水場ハ竹を折て子供は母に被せの上へ有  
右座敷の極子と傳ひ向の方有と教へし  
焼火と持て被極と傳ひ曲りて右と被而の  
而へ有と顔のたりの有とせとせと教へし  
盤ゆくとせとせと極子にめたとせと教へし  
被ひ見ると竹を折て又竹を思ふとひかりハ  
せしとせと素の目よきとせとせと竹を折て  
極く小使とせとせと再びその有とせと又ひかり  
せしとせと元来道云はる極の事ハハ驚ぬ豪傑故

外ハ竹事を折けしは主役は座敷に候て有し  
そそ思極成事と母に河の役而ハ祖父の  
代り系りしを又観の代りしとせとせと  
而もせと被極とせとせとせとせとせと  
婦と伝へる又又明晩来るべしと傳へて  
後と道云ハ不審極業をせしと又被極  
極く秋前なりとせとせとせとせと  
よりハ驚く極と紙と黒と雲と脚元の有と  
白と黒と色とせとせと被持極とたりし腰背の  
有り而切先と上よりたりの肩先の有と而たりの  
袖より見えぬ極ハ竹を折て能く  
前秋の如くなりし顔ひやりとせとせと等愛かに候て







大いなる威風凛々なり  
 顔も金毛の如く尾ハ  
 甚だ大いなり先軋の  
 尾の如く如身軋のやう  
 ろく見馴る故に小歎  
 ながく甚愛懐成ものと  
 なり



靴ハハとと實ハ主形ハ威風凛々なり  
 そりとも者三別虎井は育つ能く  
 何とては顔の種類といふと  
 なるゆゑ後入のを育ちて  
 とは金毛別様のものに見え  
 妖艶ハ彼地とて誰と見え  
 評判高くありと遠の城下  
 彼婦人の匠事ハいふもの  
 止りとは事ハ右様より  
 移転事故右同氏ハ主形  
 とるせり道主ハ美藝とて  
 もとて人なり